

グレーゾーンの
子でも大丈夫！

音楽教室の先生専用
3ヶ月で学ぶ

個性別に指導法がわかる
カラフル
コミュニケーション

もくじ

第3章 フィジカルサポート ————— 3

生徒のストレスを劇的に軽減する
問題行動を起こした時の3つの鉄則
独自の五感を知って、対応を変える
気力の消耗を減らすために

第4章 生徒との信頼関係を結ぶ ————— 11

バーバルコミュニケーション（言語的）
印象に残りやすい言葉
ノンバーバルコミュニケーション（非言語的）

第3章

フィジカルサポート

全無断転載禁止

問題行動を起こした時の3つの鉄則

✓ ストレスやイライラを生じさせている原因と接触しない様にする。

「やらせすぎ」に気をつける。できなくて、何度も繰り返し始めたり、イライラし始めた様子が見られたら、早めにその事柄から気持ちを他へ向くようにアプローチする。

✓ クールダウンさせる

聴覚、視覚からの刺激を減らす。矢継ぎ早に話しかけたり、テキストや品をコロコロ変えたり、選ばせたりしない。現状の把握、それを共有してあとは静かに待つ。静けさが最も有効です。トイレに行く事で、自分でクールダウンしている場合もあります。

✓ リラックスさせる方法を見つけておく

疲労が溜まっているときは気持ちのコントロールが難しくなる。早め早めの休息を心がけ、強い問題行動にならないうちに対処する。
好む教材や音楽的アプローチを知っておく事。リラックスゾーンを知っておく事が有効。

生徒のストレスを劇的に軽減する

同じ刺激でも敏感に感じたり、逆に感じにくいなどの、感覚処理が特異的な方がいます。この特性を生かして「調香師」や「バリスタ」など専門性のある仕事につく方もいます。特異性で困っているときには、原因を**とりのぞく・はなれる・さける**などの対処をしたり、**感覚統合のアプローチをしていく事が有効です。**

感覚のストレスを減らすだけで、頑張る力が持続できるようになるからです。

しかし

「無理やりにでも離れさせる」という対処法は厳禁です。解決につながらないどころかトラウマになるなど心身の健康を害するリスクが高いです。

「普通の感じ方と違うから」と言って相手の感覚を否定するのではなく、どんな風に世界を感じているのかを知り、どんな工夫をすれば過ごしやすいのか一緒に考えられる関係にしていきたいと思います。



独自の五感を知って、対応を変える

聴覚

ざわつきで苦しくなる

刺激が欲しくて耳を叩きたくなる

楽器では好きな音域と、苦手な音域がある。楽器自体の音も生理的に好きな音、嫌いな音がある。急な予期しない音には、とても驚きます。そして消耗します。



視覚

白地にプリントされた文字が読みにくい

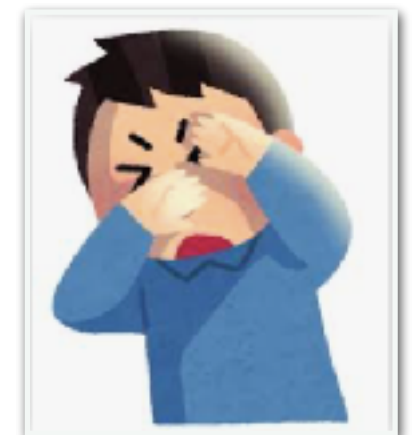
蛍光灯の光が眩しくて疲れる

線や形の見え方が違う場合もあり、基本的に各ページがすっきりとしたテキストの方が良い。

カラフルなテキストは気が散る原因にもなります。

注意事項を色で分けると、インプットしやすいこともある。

何段目、何小節めが混乱する時は、今弾いているところを指で示してあげる。



触覚

暑さ寒さの感じ方が違う

手を繋ぐ事が苦手

刺激が欲しくて体を叩きたくなる

締め付けるものが苦手 （靴下をいつも脱ぐのはこのせい）

LESSNGグッズも、カスタネットなどくっついている事が気になってしまう。

あまりお勧めしません。

発表会の衣装は、事前にチェックが大切。



前庭覚 身体の傾きやスピード、回転を感じる感覚

姿勢保持が苦手

乗り物酔いしやすい

グルグル回らないと落ち着かない

ぴょんぴょん飛んでいる事が好き



固有覚 身体的位置や動き、力加減を感じる感覚

力加減が難しい

よく物を落したり、こぼしたりする

右手左手の認識など、定着に時間がかかることもあります

臭覚

石鹸、香水の匂いで気持ちが悪くなる

紙の匂いがわかる

味覚

特定の食材が食べられない

変化が苦手で決まったものだけ食べたい



気力の消耗を減らすために

- ✔ 楽譜は、単色使いですっきりしたもの。横長のものが目で追いにくいこともあります。
- ✔ 照明の色や明るさに気を配る。
- ✔ 楽譜通りにこだわらなくても、高音域、低音域と耳に心地よい音で弾くこともありなのではないか。
その際、曲の構成でうまく繋がらなくなってきた時をチャンスで、本来の楽譜記載の弾き方を提案してみる。
- ✔ 姿勢や、手の形、腕のポジションを指導するために、身体に触れなくてはならない時
事前に一言お知らせする。
「右手触るよ」「肩に触るよ」など。ほんの一言で、びっくりする事を減らせます。
- ✔ 突然の変更は、どんな事でも極力しないように心がけます。どうしてもという時は、その事によっていつもの様なレッスンが出来ないかもしれないと、考えてあげて、声がけして上げることです。
夕方と昼間 笑い声やびっくりした時のアクションも
スケジュールの変更 緊急自動車の音

第4章

生徒との 信頼関係を結ぶには

無断転載禁止

【バーバルコミュニケーション（言語的）】

伝えたいことは、短い言葉で端的に話しましょう

教師の感情のままに話を進めると、何が一番大切な事なのかわからなくなる。

なぜ、指導を受けたのか。叱られたという恐怖だけが印象に残り、肝心の指導した内容は全く記憶していないということも、しばしば。

「わかりにくい」と感じると、聞かなくなり聞く耳を閉じたり、ふざけてその場から逃げようとしたり。悪循環に陥ります。

良い、悪い。する、しない。いる、いない。

結論をはじめに持ってくる話し方が伝わりやすいようです。

〇〇したら△△して。→〇〇できる？△△してみましょう。指示は1度に1つ。

語尾は、～です。～ます。～しません。

アイメッセージで話しましょう。私はこう思うの～。私ならこうするけれど～。

声かけは曖昧な言葉ではなく、具体的な言葉で話しましょう。

想像することが難しかったり、前後の話の流れから推測することが苦手なので、結論をわかりやすく言わないと、何を教師が言いたいのか伝わっていないことがあります。

「真面目に取り組む」→ピアノに向かって椅子にこのように座り、この曲を弾きます。

1回弾いてみましょう。おうちで弾いたように、ここでも弾いてみて。

ここをもう一度弾いてみて。
もう一度・・・もう一度弾こうか・・・
↓
3回繰り返して練習をします。
使う指を手に覚えてもらうためです。

ちゃんとやりましょう
↓
ピアノに向かって、座ります。
この曲を弾いたら休憩をして良いです。
10秒ね。

始めたのが遅かったのに
他の子と同じくらい弾けてすごいわ
↓
あなたの目標は達成。100点！

このままだと発表会にうまく弾けないよ
(だから練習しようね)
↓
先生と約束したことを約束の通りやってきます。

言葉がどの程度伝わり、どの程度記憶力があるか把握する

「はい」と返事をしているにもかかわらず、理解していないことがあります。聞き返したとき、おうむ返しをしたり、違う話題にすり替えてふざけたりするのは、覚えていないことに理由があったりします。感覚的な言葉や、比較して大きい小さいと判別するような言葉は特に注意します。

気持ちを聞きたい時は、2つか3つくらい選択肢を伝え選んでもらうと答えやすいようです。

小さく弾きましょう

↓

泥棒の足音みたいに押してみて

高い音、低い音

↓

右側へ、左側へ

発表会は暗譜で弾きますよ

↓

○日に本を見ないで弾きます。

待っていてください

↓

楽譜をカバンから出そう。

ここに座ってドリルを1ページやります。

○分になったら、ピアノをしましょうね。

口で説明するだけでなく、文字や絵を使って説明する

「耳で聞き取りながら、注意しながら弾く」

1度にいくつものことをすること＝マルチタスクが苦手

話をしながら、箇条書きに書き留めて言ったり、子供が体験していそうなことに置き換えて、簡単に図解して指導をする。想像するお手伝いと、十分な時間を与える。

3回弾くという事も、視覚で「3こ」がわかることで出来たり、3、2、1とカウントダウンすると出来たり。努力と根性、ご褒美で頑張らせるのではなく、全体の量を見せて約束すればできることがあります。

あっという間にできてしまうと、ついもう少し弾かない？・・・と欲がでますが、そこは絶対に✕。



印象に残りやすい言葉

ピンポン！

すごい！

あと○回
(カウントダウンする)

赤いおうちの上に立つ。
はい！ピーン！

格好がいい

ツルツルに弾く

トントんと弾く

ピアニストみたい

できてる！

えいっ！と飛ぶ

格好が悪い

まる！

先生待ってるからね！
はいあと10秒 10・9・8・・・

【ノンバーバルコミュニケーション（非言語的）】

言葉ではない表情などに注目してコミュニケーションをとる

表情から感情が汲み取りにくい子がいる。注意して観察するうちに、嬉しい時なあえて気難しい顔をするとか、飽きてくると貧乏ゆすりができるとか、読み取る。わかった時に「嬉しかったね」「がんばったね。少しリラックス！」などフィードバックの言葉がけをする。

困っていても、言葉にすることが苦手だったり、どんなタイミングで先生に言うべきかわからないために、我慢していることがある。気がつかないままその状態が、長く続くと急にやめるという事に。察して、声かけをしてあげることで、分かってもらえると、信頼が深まる。

ボディタッチの際気をつけること

生徒の後ろに立たないこと。

斜め後ろ、生徒の視界に入る場所に立ちましょう。気になって弾くことに集中しにくくなったり、弾くことに集中すると、後ろにいたことを忘れてびっくりさせてしまいます。

手や肩に触れる時は、「触るよ！」と事前に言葉をかけます。

意識を向けるために、軽くタッチすることはとても有効です。ただ、苦手な子も多いので、心の準備をして貰えば大丈夫です。

こだわり行動への配慮

レッスンの流れ、例えば前後の子がいつもと違う、教室に入る入り方がいつもと違う。テキストの進め方の順番が違う。約束していた曲が全て弾く事ができなかった・・

どうもムズムズする・・そうです。たいした問題ではないことも多く、生徒の希望に合わせてあげましょう。また、変えられないことでも、一言「今日のごめんなさいね」と声をかけることで、気持ちが落ち着く事もあるようです。

いつも初めから弾きたがる。これも、こだわり行動です。可能ならそうしますが、楽曲が長くなる前に曲の与え方を工夫する事で、途中から弾いたり、部分練習ができるようにしていきましょう。

大切なことは、「こだわらないで」というアプローチはしないことです。

教室のルール作り、先生の生徒に対する関わり方

レッスンの時間は、伸びたり、待たせたりしない。そうになってしまう時は、言葉ではっきり伝えること。ルールはわかりやすく、きちんと伝える。必要であれば書面にすると、良い。

先生の雰囲気、あまり大きく変えない方が安心する。服装・ヘアスタイル・色合い
生徒のタイプに合わせ、話しかけ方を工夫する。

落ち着いた話し方の方が、指示が入る子。落ち着いた声のトーン。話すスピード。間のとりかた。
ぼんやりする隙を与えないように、スピーディーに進めた方が、集中できる子。次のカリキュラムを
どんどん与える。主導権をいつも指導者側にとっておくこと。